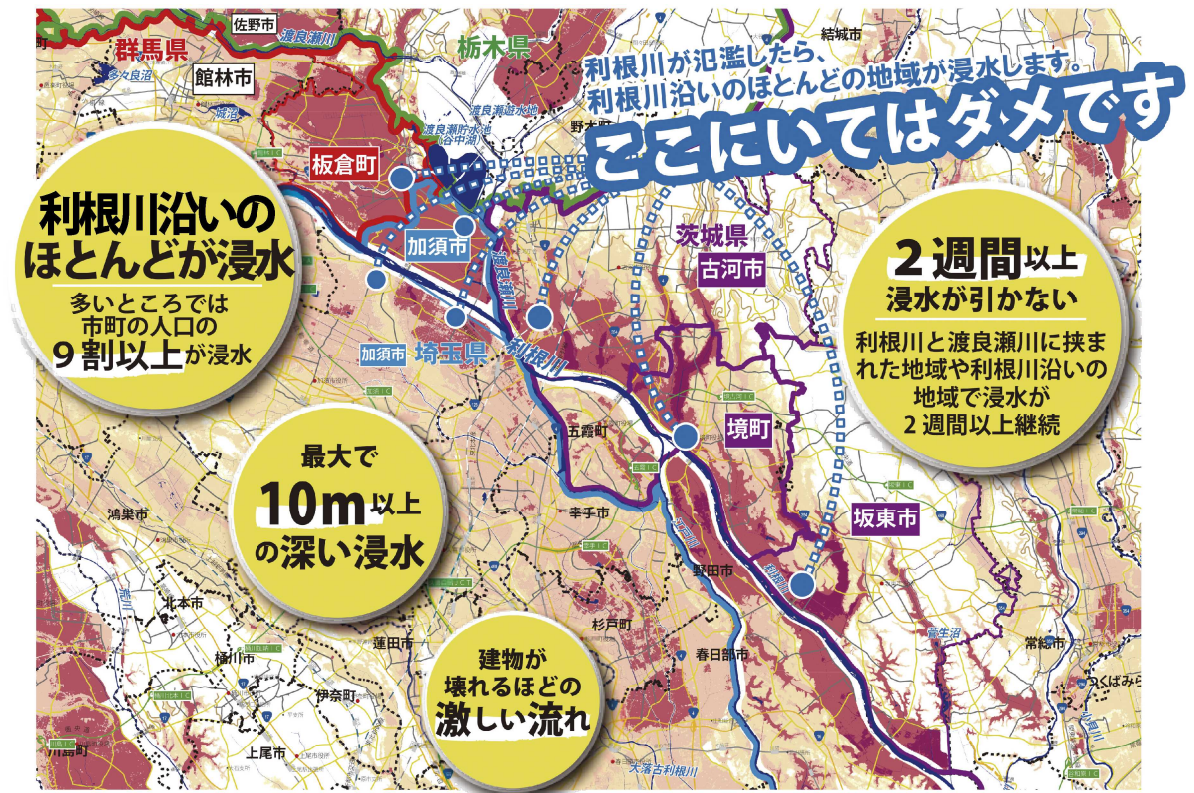


利根川や渡良瀬川の氾濫の危険性を事前に感じたら

ためらわず早めに **個人広域避難(町外)**

※1



市町では公的な避難先の確保を進めていますが、収容できる人数に限られます。

**日頃から**  
**「親戚・知人宅や宿泊施設・勤務先等の自主避難先」の確保**  
を考えておきましょう。

**まず**  
浸水のおそれが高い地域の親戚・知人宅や宿泊施設・勤務先等

**つぎに**  
市町が指定する避難先

**各自で確保**  
これが最も安全で快適

浸水想定区域にお住いの親戚・知人がいる方は、避難の声かけや避難の受入れをお願いします。

※1 広域避難:他の自治体への避難。または、自らの自治体内であっても、居住地域外、地区外等への浸水区域外への立退き避難  
※2 自主避難先:自治体が指定・確保する施設ではなく、親戚宅・知人宅、勤務先、宿泊施設など、住民が自ら確保した避難先。(屋内安全確保は除く)

### 利根川中流4県境広域避難協議会

(板倉町・加須市・古河市・境町・坂東市・館林市・佐野市・気象庁・利根川上流河川事務所)

利根川中流4県境広域避難協議会  
平成29年度に5市町をメンバーとして発足され、利根川氾濫時に「逃げ遅れゼロ」を実現するため、自治体間連携を含む広域避難態勢の構築・運用のための検討を行っています。



# 避難場所が足りません

利根川が氾濫した場合には、広範囲に深い浸水と長期間の浸水が想定されます。利根川中流域の5市町(板倉町、加須市、古河市、境町、坂東市)の浸水区域内の人口は約13万人になり、板倉町ではその大部分が浸水区域となります。それぞれの市町の中での避難では、避難所に入れないかたが大勢出てしまいます。避難先は、浸水の恐れがない町外の親戚、知人宅や宿泊施設、勤務先などをご検討ください。

平常時の利根川と渡良瀬遊水地

令和元年東日本台風時の利根川と渡良瀬遊水地

写真提供 国土交通省利根川上流河川事務所

令和元年東日本台風では、町で初めての「避難指示」を発令し、4,000人を超えるかたが避難しました。渡良瀬遊水地では、貯留量が1.6億m(東京ドーム約130杯分)と過去最高を記録するなど、大きな水災害が差し迫った大雨となったところ。渡良瀬川と利根川に挟まれた板倉町では、国が想定する1,000年に1度の大雨により、町土の約9割が浸水するとされています。町内の避難場所も限られ、2,0

00人以上分の避難場所が確保できないことから、浸水の恐れのない町外の親戚・知人宅や職場、宿泊施設などへの**広域避難を最優先**としてください。昨年配布した「詳細版ハザードマップ」は、ご自宅の浸水予想を詳細に示すものです。改めて確認し、自らの避難行動を再度検討してください。 ※「詳細版ハザードマップ」は町ホームページからも確認できます。

**浸水区域にとどまると**  
浸水の中で水が引くまでの2週間以上の間、電気・ガス・トイレが使えない生活に耐えなければなりません。

**町内の避難場所も**  
いっばいで入れない

**入れても、決して快適な場所ではありません**

写真提供 (財)消防防災科学センター